



## 『がばいばあちゃん』（5月30日）を振り返って・・・

## ＜みんなの感想より＞

- 自分にとっては優しさでも相手にとってはおせっかい、迷惑かもしれないという立場になって考えて、優しさを活用していきたいです。また、おせっかいなんやけど... って思っても、それを向うからの優しさなんだと受け止めて、おせっかいという気持ちを隠す優しさも持てる人になりたいです。（1組女子）
- 状況や場所でどのようにしてその優しさを相手にふるまうかで、その相手の生き方や性格などが変わるきっかけを作ることにもなるということが分かった。はっきりしている優しさもいいけど、なにげない優しさの方が心に伝わることのほうが多いんだと思った。（1組男子）
- 誰かに優しくするというのは、相手に気づかれずにあること、ということは良いことだと思った。優しさとは、時に相手を傷つけてしまうこともあると思うし、自己満足に終わってしまうこともあると思う。でも、反対に気づいてもらえないとしても、ささやかな優しさで誰かを幸せにすることもあると思った。（2組女子）
- 本当の優しさは、相手に気づかれずにあることなんだと本当に思ったし、何の見返りも求めず、変な欲望もない、心の底からの優しさは、その人を笑顔にするし、後になって感動するものなんだなと思った。（2組男子）
- 何かを相手にしてあげたら、お礼や感謝を求めてしまうけど、それは相手に頼まれてしているわけではないし、自分が勝手にやったことなので、必ずしもその期待に沿った見返りが返ってくるとは限らない。本当に自分の良心でやったことならば、自分の達成感ではなく相手がいかに嬉しく思ったかを優先するべきだなと思った。優しさって難しい。（3組女子）
- 自分の思いを伝えて見返りを求めることは別に良いことだけど、その自分の思いだけを伝えて期待通りの見返りが来ることは限らないと思った。自分の思いを伝えるのは大切だけど、相手の思いも知ることがもっと大切だと思った。（3組男子）
- 相手に気づかれないように人に優しくできていないこともあるなと思いました。人に親切にした時に、見返りを求めてしまったら、それは本当に相手のために親切にしているんじゃないくて、自分のために人に親切にしていることなんだなと思った。（4組女子）
- 誰にも気づかれずにした優しさは、誰にもほめられたりしないけど、きっとどこかで誰かが助かっているんだと思いました。よく考えて、一つのことだけを見ずに、全体を見れるようになりたいです。（4組男子）

- 本当の優しさは相手に気付かれずにする。本当の優しさとはとても難しいことだと思いました。2つの優しさがあって、独りよがりの優しさは素直に喜べないものだけど、本当の優しさは気付いた時に心の底から感謝できるもんやと思いました。本当の優しさが使える人は、その周りの人がとても優しいんだと思います。優しさというものは、人から人へ伝染していくものなのかな。と思いました。(5組女子)
- 優しさとは無理やり押し付けるより、隠れて助けてあげること。僕は人にしんせつにするだけで、優しとかそういうふうに思っていたけど、陰でサポートする優しさが一番格好いいと思いました。(5組男子)
- 私は、おせっかいと優しさでは違いがあると感じました。おせっかいは、相手の気持ちを考えず行動してしまうことで、優しさとは、人が見ていなくても、1人ひとりの気持ちを考えて行動するという意味だと感じました。(6組女子)
- 相手に気づかれずにするということはとても難しいことだと思った。おしつけてしまうと、本当にいいことをしたとしても、相手がどう思うか分からないし、もしかすると、嫌かも知れないから、相手に押しつけることなく相手の気持ちにそって考えることが大切だと感じた。(6組男子)

修学旅行を目前に、小説「がばいばあちゃん」の修学旅行を題材にしたエピソードを通して考えました。母親の病気の治療のため、修学旅行に参加できなくなってしまった仲間に対して、何とか一緒に！という思いから、みんなでバイトをしようと呼びかける主人公。目標金額にたどり着いた達成感と、相手の喜ぶ顔を想像しては意気揚々とお金を手渡します。しかし、思いとは裏腹に、修学旅行に現れなかった友人。「どうせ、何かに使い込んだに違いない。」と詰め寄ると、後輩達へ部活の用具を買うためにお金を使ったことがわかりました。徳永君が土下座をしてまで仲間に謝ったのは、仲間を疑ってしまったことへの後悔や、結果的には自分の気持ちを優先し、優しさを押し付けて困らせてしまっていたこと等、様々な思いがあふれてきたからではないでしょうか。けれども、仲間を思い、バイトをしようと呼びかけた徳永君も、それに応えた部員達も、自分の気持ちを横に置いてお金を受け取ったことも、(自分が修学旅行に参加するという)楽しさではなく、後輩のために形として残したことも、一つひとつが、“優しさ”だと思います。相手の思いや状況によって“優しい”の形が変わることもありますが、たくさんの“優しさ”で溢れる物語でしたね。

さあ、いよいよ修学旅行！いつもより仲間と過ごす時間も長くなります。みんなと過ごす3日間が、優しさと笑顔で溢れる、いいものとなりますように。